羊ケ丘の鳥

四十万谷（しじまや） 吉 郎

羊ケ丘自然愛好会員による鳥の餌づけ

私達が生活している北海道農試一、一〇〇ヘクタール（林業試験場も含む）は宿舎、庁舎などの建造物、草地、圃場、

林、笹地などで構成されており、草地にはウズラ、ホオアカ、林にはキビタキ、クロツグミ、笹地にはウグイス、圃場にはヒバリ、等々、四季を通じ多数の野鳥が棲んでいます。

◇

昭和四十六年以来、これまで三一科九二種の野鳥を農試内で確認しました。これら九二種のうちアカマシコ、スズガモなど四年間に一、二回しか確認していない種類が一二あります。また、夏鳥、冬鳥、留鳥というように区分すると、夏鳥はカッコーなど四一種、冬鳥はツグミなど九種、留鳥はアカゲラなど一四種、その他（前記三区分のどれに入れてよいかわからない種類）二八種で、繁殖を確認したものが三三種です。

◇

少々古い資料になりますが、道立林試の藤巻裕蔵氏による北大第一農場（昭和三十二年～三十六年）、藻岩山（昭和三十二年～四十一年）の調査では、それぞれ七四、七一種が確認されています。農試を含む三地域での観察記録は、環境、調査年次が異なるため、同列に比較できませんが、農試内は札幌市内でも有数の野鳥の多い地域であることがおわかりいただけると思います。（羊ケ丘自然愛好会）